

難キ旨同署長より示達分受テ更ニ進ンテ

事ノ旨ニ相方合シテ其旨ニ付
法回部知事
此旨法回部知事
此旨法回部知事

親交 一一一

大正六年十二月五日

茨城縣知事力不雄一

内務省警保局長永田秀次郎殿

酌必ニ関スル件

新奈川縣横濱市南太田町

古物行あせキ私生兒

三澤千代

明治三十五年三月二十五日生

右、者、同、日、表、客、月、十、日、附、去、秋、茲、第、三、五、七

茨城縣

係秘鑑五七



拜、以、以、以、依、以、月、三、九、付、候、祝、收、第、一、二、
 拜、以、以、以、及、回、答、至、及、知、本、人、客、月、十、五、日、縣、以、東、
 茨、城、系、上、下、妻、村、大、字、領、島、料、理、在、永、島、を、事、
 奈、良、部、多、祢、方、お、借、四、十、五、円、以、上、の、預、金、を、業、
 毛、依、然、然、祝、権、者、承、諾、書、ナ、キ、ハ、以、上、の、預、金、を、業、
 以、出、氣、を、能、く、徒、食、シ、在、リ、中、月、三、日、日、本、安、堵、
 教、如、矯、を、令、財、主、法、人、タ、リ、テ、ト、無、愛、欲、也、
 以、上、ト、並、に、祝、権、者、代、理、人、信、興、信、行、主、事、
 池、田、晟、人、モ、未、縣、ニ、付、テ、轉、替、等、察、長、ト、シ、テ、
 中、人、及、産、主、ト、名、受、説、後、上、本、人、ハ、右、ハ、以、上、
 ト、各、一、名、引、渡、シ、飯、濱、致、次、奈、所、迄、及、
 通、報、也、
 (了)

夏 和 三 氏

親 改 一 一 一

大正六年十一月廿九日

茨城縣知事力石雄一郎

内務省警保局長永田秀太郎殿

酌婦ニ関スル件回答

原籍神奈川縣横濱市南太田町番地不詳
 當時茨城縣西茨城郡北那珂村大字富谷
 料理店酒井タケ方寄寓

三澤 千代野

明治三十五年三月廿五日生

右ノ者、関シ本月十日附警、秘發第三五七號ヲ以
テ市照會ノ處左記ノ通ニ有之候條及回答候也

左記

一 本人ハ未成年者ニシテ親権者ノ承諾ナキヲ以テ本
縣ニ於テハ酌婦トシテ許可ヲ與ヘサルモノナリ
二 本人ハ本年五月三日午葉縣野田町紹介營業長
島太吉ノ紹介ニテ同地料理店氏名不詳八百田屋
ヨリ縣下猿島郡弓馬田村料理店篠塚久録方
ニ前借四十五圓ヲ有シテ轉稼シ来リタルモノニシテ
篠塚方ニ於テハ本人ノ親権者ノ承諾書ヲ有セサ
ルト健康診断ヲ厭ヒ出願條件タル健康診断
書ヲ得ラレサルヨリ酌婦營業出願ノ運ニ至ラス本

人ノ希望ニ依リ紹介業富山佐重ノ紹介ニテ同
月九日前借四十八圓ニテ同郡岩井町料理店古谷
いぬ方ニ轉稼シタルモノ同様親権者ノ承諾ナキ
爲出願ノ運ニ至ラス同年八月三日縣下眞壁郡
下館町紹介業笠倉代吉ノ紹介ニテ現寄寓
中ナル西茨城郡北那珂村酒井タケニ前借五十
五圓ニテ轉稼シ来リ同月十五日笠間警察署
所屬岩瀬巡查部長派出所へ實母三澤也幸
ハ承諾書ヲ添附酌婦營業ヲ出願セムニ該承
諾書ニハ成規ノ印紙貼用ナキヲ以テ不備ヲ稱
シ却下シタリ本人ハ印紙貼用方實母ノ許ニ
照會シタル由ナルモ何等ノ返信ナク其儘

今日に至レルモノニシテ所轄警察署に於テハ
親権者ノ承諾ナキ者ハ酌婦タルヲ得サルヲ
以テ嚴ニ客席等ニ侍スルヲ禁セルヲ以テ徒食
スル外ナリ前借ノ漸次増加セルハ紹介業者ノ
手数料及旅費等ノ嵩ミタルモノナリ

三
然ル処本年十月二十二日自稱中外興信所主
事成田最吉三十五年位ナルモノ酒井タケ方
ニ来リ實母ノ囑托ニ依リ本人ヲ引戻ノリノ来
レリト稱シ前借金ヲ支拂ハス引戻サント成
高ニ談判シタルモノ酒井ハ之ニ應セザリシ処右成
田ハ岩瀬巡査部長派出所ニ出頭シ本人引戻ノ
助力ヲ請求セルモノ巡査部長ハ突然酒井方ニ来

リ本人サイ不知ノ者ナルニ相手方ノ承諾ナシ引
戻サントスルハ適當ヲ缺クヘシト其ノ要求ニ應セ
ザリシニ彼ハ罵倒的言辭ヲ弄レテ立去シ同
月三十日同人ハ再ニ笠間警察署ニ出頭同
様ノ申出ヲ為シタルモノ實母セキト相談、上前
借金ヲ支拂ヒ引戻ノ手續ヲ為スヘキ旨諭
示レタルニ其ノ儘立去シ

四
以上ノ如ク本人ハ引續目下肩書酒井タケ方
ニ徒食シ居レリ本人ハ性行溫和實着、如ク
ナルモ從來往々未成年者ヲ酌婦、往來マレノ
其ノ親権者又ハ夫ト稱スル者承諾書問題
ヲ去為シ前借金ヲ踏倒サント奸策ヲ弄ス

ルモノアリ本件ニ蓋シ此ノ種ノ不正行為ニアラ
サレナキカト思料セラル

終

大正十一年十一月

本件ノ件
本件ノ件

警秘第 第三七號

本件ノ件
本件ノ件

船中ノ件

神奈川縣横濱市南太田町三澤千代ノ親ナレモ
去ル月中奉公口ノ求ムル爲メ出立セシキ
管下ニ於テ三四ヶ所ノ轉送ニ目六半ノ多ク
本件ノ件ノ内富村河田氏方ニ於テ本件ノ件

大正十一年

ト云々者多日人ノ對ニテ親權者ニ於テ同
意ノ與ハルコトナク其ノ間金ニ誘拐セラルル者
初メ同國ノ以テ住込ニ酒田居云々ハ五長國
住込ノ為ニ而カス其ノ急ハ殆ト本國人ニ於
テ入手ニ急モ年々概々他人ノ手ニ歸スル者
ニシテ東京市在住本國人ノ多ク其ノ多ク
所知之本人ノ救済セシト欲シ特ニ人ノ老
而疾方ノ法ニ其得セキ者多ク持来スル
セリ引渡シ能ハル旨ノ以テ拒絶スルハ所更
ニ其難也此等在在所事情ヲ中述スルニ
目的ノ達セズ空ニ歸来者由ニテ之ヲ知
ルル本國人等其數多シ今ニ救済策ニ付
協議ノ途ヲ示スルハ一國ノ有テ孰ハ本國
協

勸導

婦許ノ當時ニ於テ訪取振込等差ニ
同ルル事件事云々其相違点法示者
成程云々